

完成しました。森や木との触れ合い拠点

～森のおうち&遊歩道完成式～

12月3日(日)、ふおれすと鉦山で木育センターハウス『森のおうち』の完成式と寄贈式、『遊歩道』の完成式が行われました。

『森のおうち』は、子どもから大人までの多くの方に、森や木に親しんでもらうことを目的とした『ふおれすと鉦山木育プロジェクト』の拠点にしようと、NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶのメンバーが6月から建設を開始。建設には、延べ250人が携わり、ふおれすと鉦山内の間伐材を有効活用して、ロフト付き平屋のログハウス(約13平方メートル)を製作し、市に寄贈しました。

『遊歩道』(全長700メートル)は、胆振支庁が共生保安林整備統合補助事業として平成17・18年度の2カ年で整備を進めていたもので、道内産の間伐材を使用したウッドチップを敷き詰めたほか、多くの市民の意見を参考に、子どもの遊べる池や車いすでも通れるように坂を緩やかにするなどの工夫がされました。

この日は、『遊歩道』のテープカットや歩き初め、『森のおうち』の前でのもちつきなどが行われ、参加者全員で完成を祝いました。



▲森のおうちの前で記念写真



▲遊歩道のテープカットを行う代表者

自己記録の更新を目指して力泳

～第53回室蘭地域スイミングクラブ水泳競技大会～

12月10日(日)、市民プールで『第53回室蘭地域スイミングクラブ水泳競技大会』(北海道スイミングクラブ協会室蘭地域委員会主催)が行われました。

この大会は、日ごろの練習の成果を発揮する機会をつくり、今後の練習に役立ててもらおうと、年3回開催。このうち登別では毎年この時期に行われています。

今回は、登別や室蘭、白老、美唄(特別参加)のスイミングクラブ計5団体に所属する、8歳から17歳までの183人が参加。50メートルバタフライや200メートル平泳ぎ、400メートルリレーなど43種目の競技が行われ、参加した選手たちは、家族や友人の声援を受けながら、自己記録の更新を目指し、力泳していました。



男女の対等な協力で介護を

～男女共同参画講演会～

12月12日(火)、市民会館で『男女共同参画講演会』(三市合同女性国内派遣研修参加者の会『プラタナス』、市共催)が開かれ、男女共同参画に関心のある60人の方が参加しました。

この講演会は、男女共同参画社会の形成に向けた学習の場とするために開かれたもので、『高齢者介護と男女共同参画』をテーマに笹谷春美さん(北海道教育大学札幌校教授)が講師となり進められました。

笹谷さんは、「日本では、高齢者介護の担い手は中高齢の女性でした。男女が介護についてどう考え、どう分担し、どう解決するのが課題です。介護して良かった、介護されて良かったという社会をつくっていかねばなりません」と述べていました。

